

● 学校の帰り道、ぼくは小さなキツネの赤ちゃん
● を見た。
● キツネの赤ちゃんは、道路の真ん中でキュンキ
● ユン泣いていた。
● ぼくには「助けて」と言っているように聞こえ
● た。ぼくの中のせいぎの心が動いた。
● ぼくは、キツネの赤ちゃんをだきかかえた。
● キツネはぼくのうでの中でフルフルとふるえて
● いた。
● 一目散に動物病院へと走った。
● 病院について、受付へと行くと、病院のお姉さ
● んはこまった顔をしてぼくとキツネを見た。
● 「この子、ふるえているんです。」
● ぼくは、いいことをしたとこの時までには心ふる
● わせて思っていた。
● だが、次のしゅんかん、年をとったおじいちゃ
● ん先生が来て、
● 「ぼっかもーん！」
● と、ぼくにどなりちらしてきた。
● ぼくは、きよんとした。いいことをしたのに
● なんておこられるんだと。
● おじいちゃん先生は次のように話した。
● 「なぜひろつてきた。きつと今ごろ、この子の
● お母さんは、自分の子どもを必死にさがしてい
● るかもしれない。自然ってのはな、人間が手を
● 出すのが一番不幸せな結果になるんじゃない。」
● きつねのいないぼくのうではふるえていた。

問	問
い	い
2	1
なぜ、	ぼくが
びょう	助けた
いん	のは
のお	（
じい	
ちゃん	）の

先生はおこりだしたか